

そうだ。

彼にフードを殺せるわけがないんだ。

そう思うと同時に、私はさらに激しい頭痛に襲われた。

「どうして一くれなかった？」

先ほど私を起こした声が、私に再度語り掛ける。

もっと、もっと、もっともっと思い出したいものを私は思い出そうとしている。

がんと頭蓋の中を跳ね回るような頭痛が次第にハッキリとしていく。

言葉が頭の中に浮かび上がる。

拝啓。

いちばんたいせつなコートへ。

いきなりこんな手紙を読ませてごめんね。

別に何か特別なことがあったわけじゃないんだ。

むしろ、特別なことが起こらないと知ってしまった……ってほうが正しいのかな？

昨日はさ、なんてことない日だったんだ。

世界はいつもと同じで灰色に染まっていて、

視界に映るのは地面とアスファルトばかりでさ、

なんで苦しいのか分からないほどに、たくさんのものが私を責めている気がしたんだ。

無責任に光る太陽の日差しがうっとうしくて。

逃げるように入ったコンビニでクジを何枚かもらったんだ。

なんのキャンペーンかは忘れたけどさ、

私にはそれが救いのように思えて、財布から10円玉を出して削ったんだ。

『はずれ』の文字が浮き出てくるたびに、

……騙されたような気がしてしまっさ。

その気持ちを拭おうと焦って他のクジも急いで削るんだけど、

気持ちはゆっくりと蝕まれていくばかりで、さ。

今日はとっても楽しい1日だった。

アンバーおねえちゃんとコートとシロが、私のことをこんなにも大切にしてくれてうれしかった。

だけど私はさ、気づいちゃったんだ。

私が……、こんな人間だって。

ちょっとだけでいいからさ、声を出して読み上げてみてよ。



わたし 私 はまともじゃない  
わたし 私 はずっと何かに心配している  
わたし 私 は自分の傷の治し方が分からない  
わたし 私 は空っぽだ  
あし 足のつかないプールで溺れているように感じる  
あたま 頭に石ころが詰まっているかのように重い  
し 死ぬば全てから解放されると思っている  
わたし 私 のせいで誰かが苦しんでいる  
いつも完璧を求めて失敗ばかりしている  
め まえ おお 目の前に大きな壁があるようだ  
わたし 私 ずっと顔を隠していたい  
わたし 私 ずっと間違えているように感じる  
しっぱい 失敗したことばかりを思い出してしまう  
わたし 私 は誤解されてしまっている  
わたし 私 は気が狂っている  
きずぐち 傷口をずっと綿で擦られているように感じる  
わたし 私 は無力だ  
じさつ 自殺したい  
ぜんしん 全身の毛が逆立っている  
すく 救われない気持ちがある  
わたし 私 には価値がない  
わたし 私 は不安だ  
じさつ 自殺したい  
わたし 私 は哀れだ  
おなかが痛い  
こころ 心から信じることができない  
くる 苦しい  
じさつ 自殺したい  
はや らく 早く楽になりたい  
こころ ずっと心が落ち着かない  
わたし 私 は疲れている  
じさつ 自殺したい

だからさ、もう終わりにしたかったんだ。  
たの 楽しいままで、終わりたかったんだ。

したい 死体はコートに最初に見つけてほしかったんだ。

\*\*\*\*\*



A young woman with long brown hair in a braid, wearing a white short-sleeved shirt with a red heart, a dark pleated skirt, and red shoes, is bowing deeply. She is in a room with a calendar on the wall, a desk with books, and a lamp. The text "「……よわくて、ごめんね」" is overlaid on the image.

「……よわくて、ごめんね」